

区立特別支援学校について

— 済美養護学校 —



教育委員会資料
令和7年10月30日（木）
特別支援教育課

内容

- 1 特別支援教育推進計画との関連
- 2 済美養護学校の概要

1 特別支援教育推進計画との関連

杉並区特別支援教育推進計画 令和7～9年度（2025～2027年度）

理念

「すべての子どもが、自分らしく生きていくことのできるまち」
の実現を目指したインクルーシブ教育システムの構築

施策の視点

- 1 区立特別支援学校である済美養護学校のセンター的機能を生かした多様な学びの場の充実を図ります。
- 2 支援の有無に関わらず、すべての子どもたちが学校で共に学ぶことができる環境をつくります。
- 3 地域や関係機関と連携した支援体制を一層推進します。

杉並区における「インクルーシブ教育システム」とは

子どもたちが、支援の必要の有無に関わらず、可能な限り、同じ場所で共に学ぶことを追求するとともに個別の教育的ニーズにも対応できるように、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、柔軟な学びの場を整備する仕組み

特別支援教育に係る多様な学び場

都立（近隣校）

特別支援学校
（視覚障害）
久我山青光学園

特別支援学校
（聴覚障害）
大塚ろう学校永福分
教室・中央ろう学校

特別支援学校
（肢体不自由）
永福学園

特別支援学校
（病弱者）
光明学園※

※光明学園は肢体不自由部門と併置

区立

特別支援学校
（知的障害）
済美養護学校

特別支援学級
（知的障害）

特別支援教室
（発達障害）

通級指導学級
（難聴・言語障害）

小・中学校
通常の学級

済美養護学校のセンター的機能とは

目的

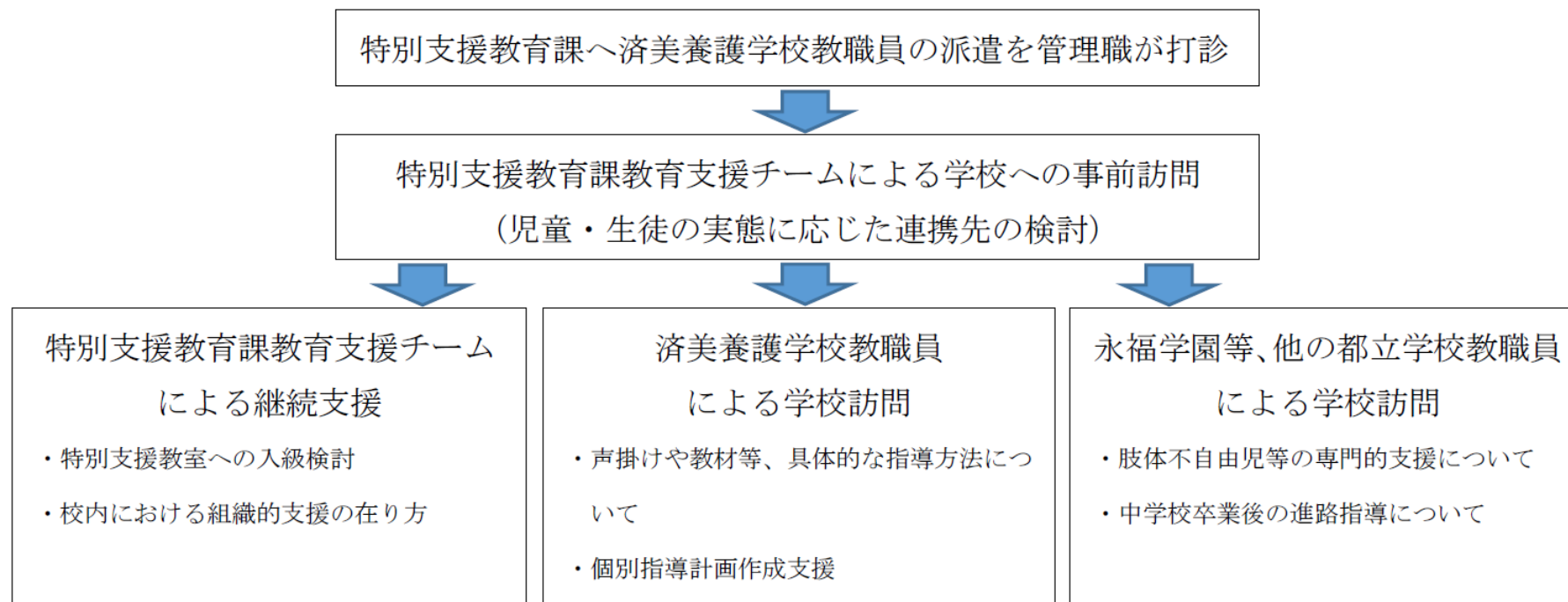
済美養護学校における実践の内容や教職員の知見を各校へ伝えることで、区立学校教職員の特別支援教育に関する指導の改善を図るとともに、特別な支援を要する児童・生徒への支援の充実に努める。

(1) 教職員の特別支援教育に関する指導の改善に向けて

- ・研修の実施

教職員の研修における講師として、済美養護学校の教職員を派遣する。

- ・済美養護学校教職員による学校訪問の実施



(2) 児童・生徒に対する支援の充実に向けて

- ・副籍交流の充実

済美養護学校と各校の特別支援教育コーディネーターの連携を促進することで、副籍交流の円滑な実施及び内容の充実を図る。

2 済美養護学校の概要

済美養護学校 教育目標

【小学部】

- ・ 健やかな心と体を育てる
- ・ 興味・関心を広げ、自ら学ぶ力を育てる
- ・ 基本的な生活習慣を学び、主体的に物事に
取り組む姿を育てる
- ・ 豊かな人間関係を築く力を育てる
- ・ 集団の一員としての役割を果たす力を育てる

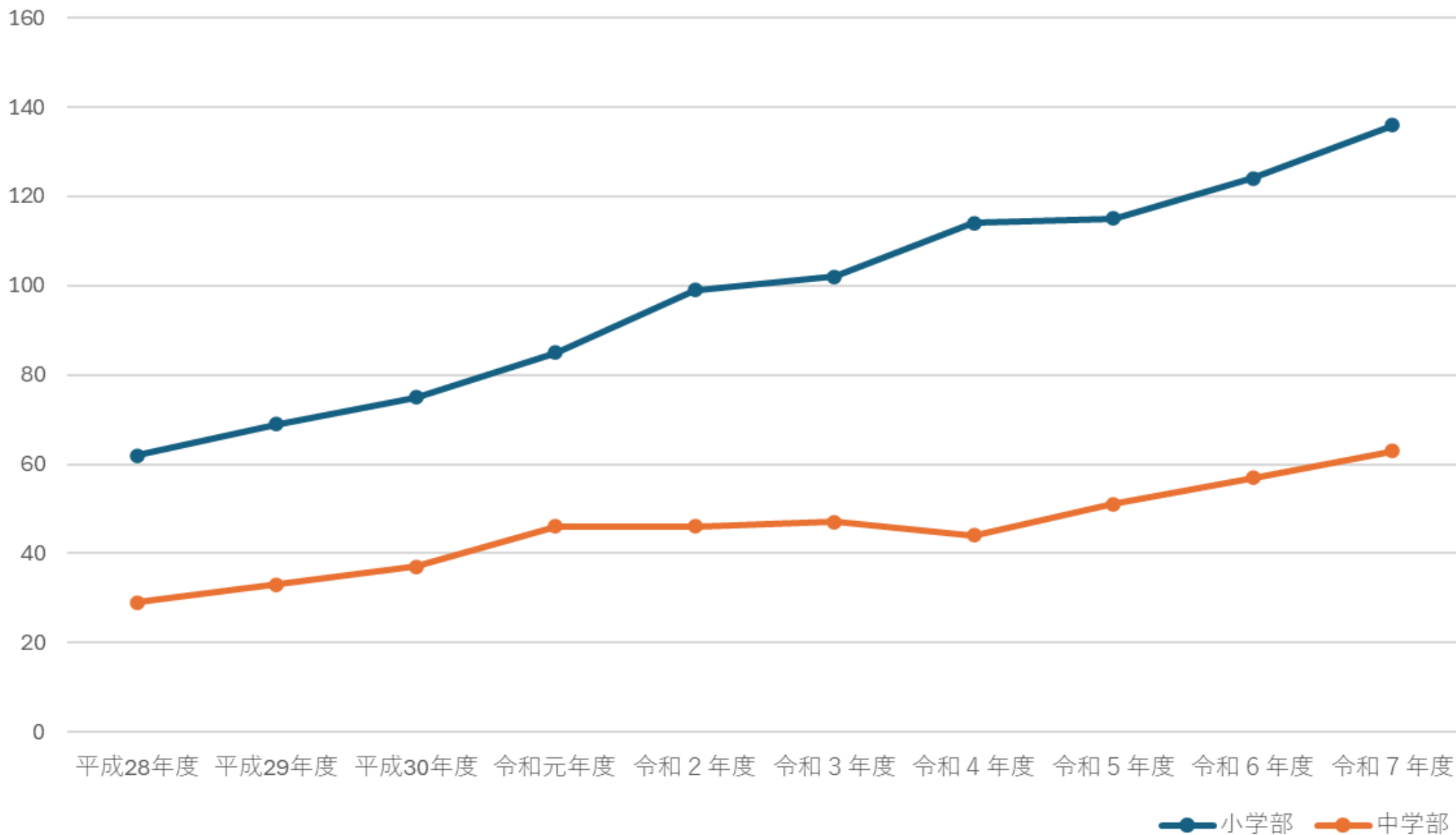
【中学部】

- ・ 自立心と健やかな体を育てる
- ・ 将来の社会生活に必要な、自立の力を育てる
- ・ 基本的な生活習慣を確立し、主体的に物事に
取り組む姿勢を育てる
- ・ 豊かな人間関係を広げる力を育てる
- ・ 社会の一員として働く意欲を育てる

済美養護学校 沿革史

- 昭和26年 2月 特殊学級、通称「済美学園」開設（小学校 2学級15名）
- 昭和54年 4月 済美養護学校開校
（小学部 2学級 小訪問 2学級 中学部 2学級 中訪問 1学級）
- 平成 7年 6月 現小学部校舎 落成記念式典
- 平成21年 9月 校庭芝生化
- 平成26年 3月 2階教室改修
- 平成27年 2月 「さくら校舎」完成 4月より特別支援教室として使用
- 令和 3年 4月 中庭校舎増築
- 令和 5年 4月 地域運営学校へ（学校運営協議会発足）
- 令和 7年 9月 中学部新校舎落成・新校舎での中学部新生活の開始

児童・生徒数の推移



令和7年度 学年別児童・生徒数

学年	小学部							中学部				総計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計	
男子	24	27	16	15	13	15	110	16	13	15	44	154
女子	6	4	3	5	3	5	26	9	7	3	19	45
計	30	31	19	20	16	20	136	25	20	18	63	199

令和7年4月1日現在

「個別指導計画」

「学校生活支援シート」

令和2年度 済美実践学校

個別指導計画 前期

学年 1年 期 前期

学年の目標

- 生徒の可能性(2通り)を察し活かしながら、半習に切り進むことができる。
- 固定化した進捗・半習内容を基本としつつ、「いつもと違う状況が起こるかもしれない」という可能性も察し直し、実際に、その状況に遭遇したときに順じずに対応することができる。

半習内容	目標	手段	評価
【個人・学校】 ①進校	①一人進歩がある。	①個別化した進捗・内容を確立する。	①進歩は「先走と一歩遅れ」という差額で得られ、1人で多く進歩を伸ばしても、いつも遅りのまま進んでいくことができた。不測の事態の対応が今後の進捗と関係する。
②進歩確認・半習	②進歩があることを確認する。本進の進捗を見る。	②本進の進捗を把握し、進歩を確認する。	②本進と進歩の進捗が一致し、進歩を確認できる。
【進歩】 ③進歩	③進歩の進捗も、少し遅れようとする。進歩には進歩がある。	③進歩の進捗を確認し、遅れようとする。	③進歩の進捗を確認し、遅れようとする。
④進歩確認・半習	④進歩の確認も、遅れようとする。進歩には進歩がある。	④進歩の確認を確認し、遅れようとする。	④進歩の確認を確認し、遅れようとする。
【その他・学校】 ⑤進歩	⑤進歩の確認も、遅れようとする。進歩には進歩がある。	⑤進歩の確認を確認し、遅れようとする。	⑤進歩の確認を確認し、遅れようとする。
⑥進歩の確認	⑥進歩の確認も、遅れようとする。進歩には進歩がある。	⑥進歩の確認を確認し、遅れようとする。	⑥進歩の確認を確認し、遅れようとする。
【進歩・学校】 ⑦進歩の確認	⑦進歩の確認も、遅れようとする。進歩には進歩がある。	⑦進歩の確認を確認し、遅れようとする。	⑦進歩の確認を確認し、遅れようとする。
⑧進歩の確認	⑧進歩の確認も、遅れようとする。進歩には進歩がある。	⑧進歩の確認を確認し、遅れようとする。	⑧進歩の確認を確認し、遅れようとする。
⑨進歩の確認	⑨進歩の確認も、遅れようとする。進歩には進歩がある。	⑨進歩の確認を確認し、遅れようとする。	⑨進歩の確認を確認し、遅れようとする。
⑩進歩の確認	⑩進歩の確認も、遅れようとする。進歩には進歩がある。	⑩進歩の確認を確認し、遅れようとする。	⑩進歩の確認を確認し、遅れようとする。

【書式1】 学校生活支援シート

令和2年4月 作成

1. プロフィール

名前	せいび 亮太	性別	男	学年	22	年	7	月	15	日生
住所	済美 太郎	保護者名	済美 一郎	電話番号	①090-1234-5678(母) ②090-5678-9012(父)					
学年	初等	学期	前期	進歩	あり	進歩	あり	進歩	あり	進歩

2. 進歩の状況

進歩の状況	進歩の状況	進歩の状況	進歩の状況
進歩の状況	進歩の状況	進歩の状況	進歩の状況
進歩の状況	進歩の状況	進歩の状況	進歩の状況

3. 進歩の支援

進歩の支援	進歩の支援	進歩の支援	進歩の支援
進歩の支援	進歩の支援	進歩の支援	進歩の支援
進歩の支援	進歩の支援	進歩の支援	進歩の支援

- 一人ひとりのねらいや手だてを明確にした指導内容を評価するための「個別指導計画」
- 本人を取り巻く地域の支援やネットワークの構築に役立てる「学校生活支援シート」

専門家（療法士）による指導・助言

特設自立活動において



- ・ 担任への指導助言を行ったり、必要に応じて抽出指導を行ったりする。
- ・ 保護者からの相談にも応じる。

副籍交流

特別支援学校（済美養護学校）の小・中学部に在籍する児童・生徒が、居住する地域の区立小・中学校に副次的な籍をもち、交流を通じて、居住する地域とのつながりの維持・継続を図る制度



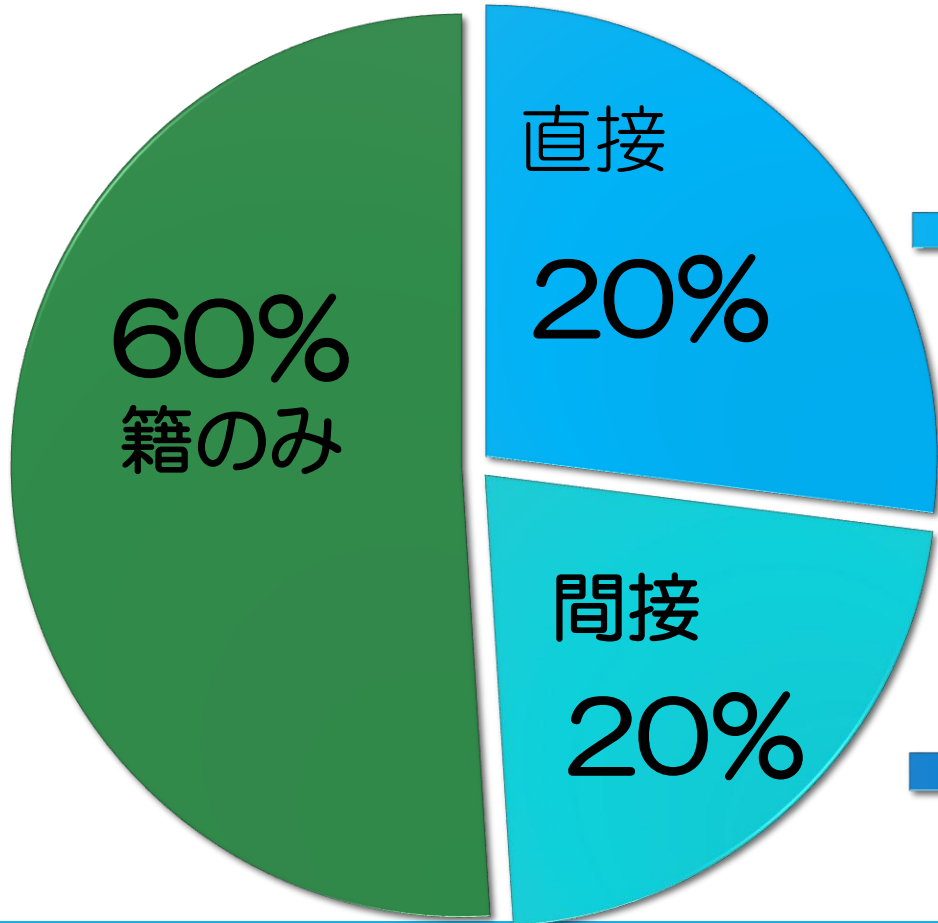
児童・生徒の実態や保護者のニーズに合わせて、指定校との交流活動を行い、児童・生徒の世界を広げている。

副籍交流の実際

副籍交流実施72名中

直接交流36名

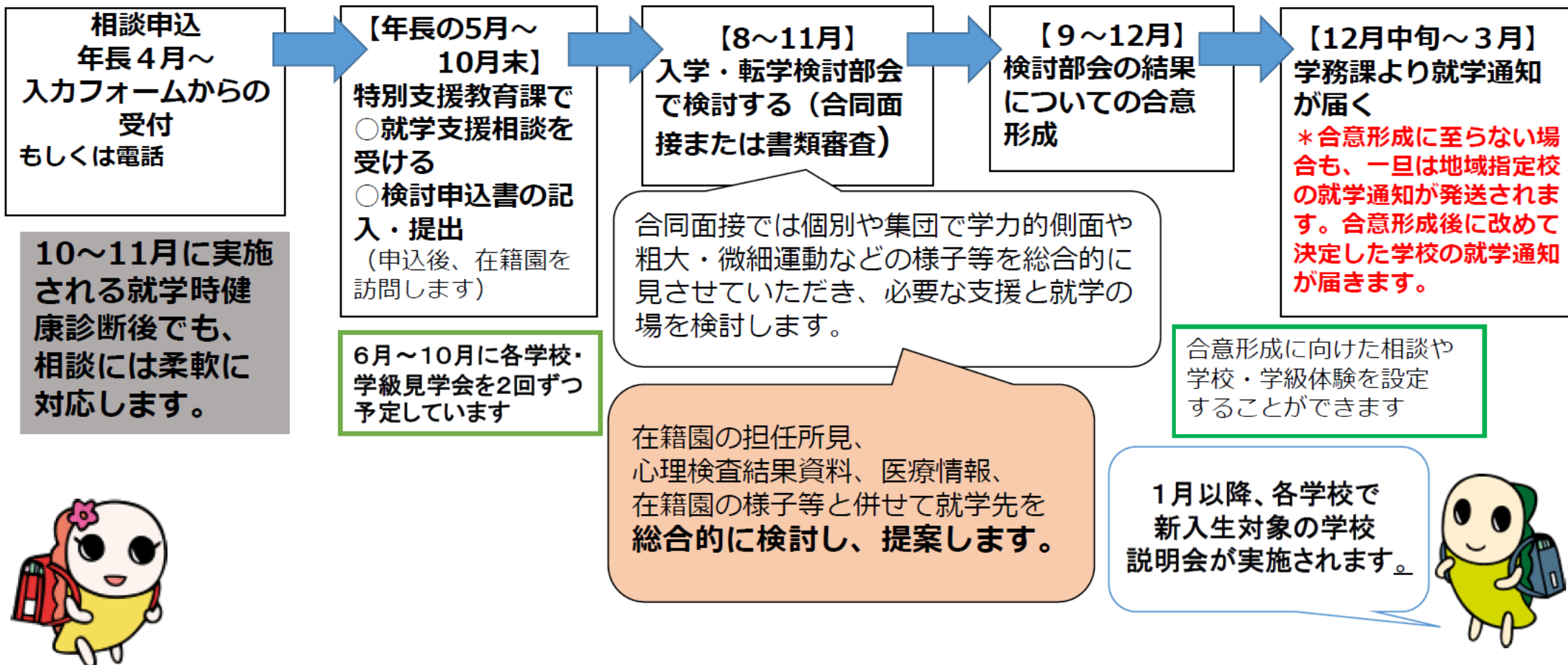
間接交流36名



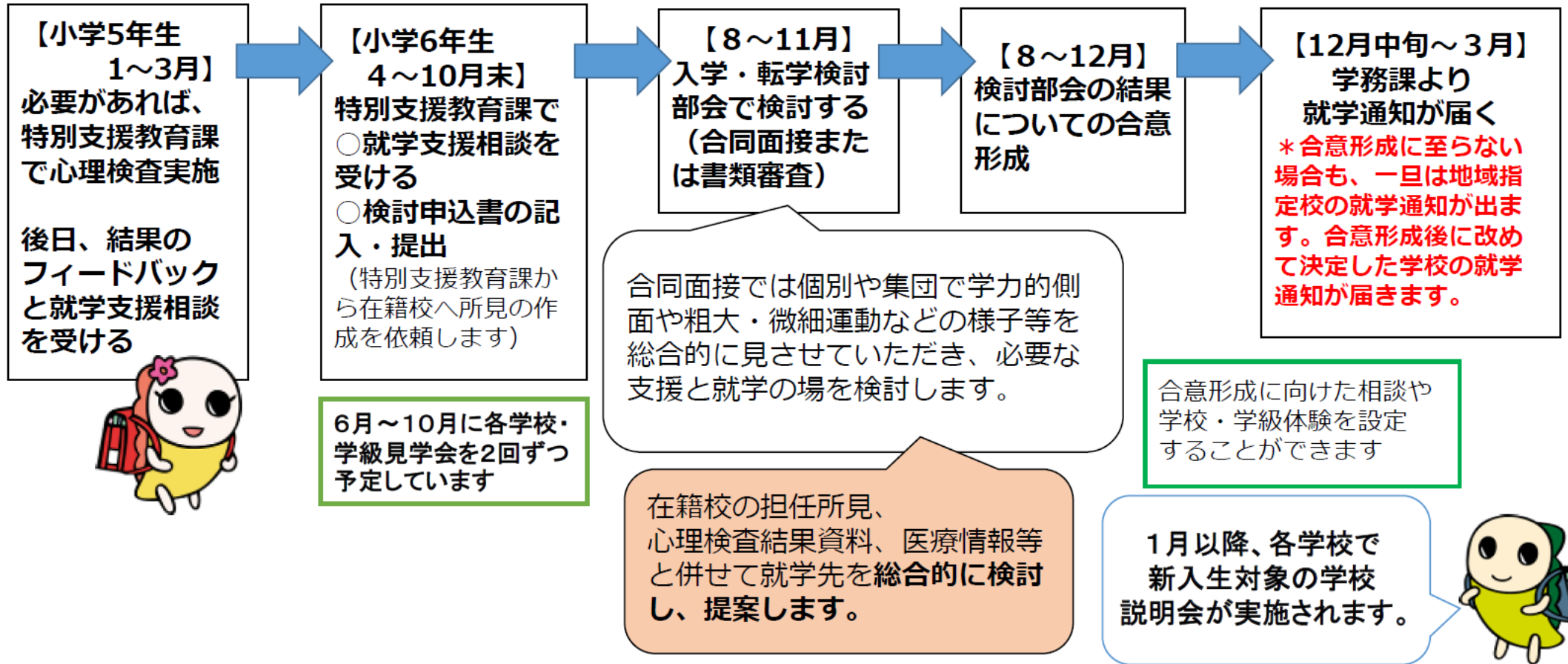
直接 交流	計 36名	小学部	30名
		中学部	6名

間接 交流	計 36名	小学部	31名
		中学部	5名

済美養護学校への入学（新就学時）



済美養護学校への入学（中学校進学時）



卒業生の進学先

済美養護学校中学部卒業

都立中野特別支援学校 高等部

(早稲田通り以南在住生徒)

都立練馬特別支援学校 普通科

(早稲田通り以北在住生徒)

企業就労
進学
福祉施設

就労移行 作業所 (就労継続A型・作業就労B型) 自立訓練 生活介護

区立特別支援学校について

— 済美養護学校 —



教育委員会資料
令和7年10月30日（木）
特別支援教育課